



Washington Japanese Language School
(祝) 60 周年 ワシントン日本語学校

2019 年 3 月 16 日発行 第 41 号

校長 佐藤 良明

はなみずき

mail:wjls@wjls.org <http://www.wjls.org/>

[ワシントン日本語学校事務局]

HOT LINE (301)962-7415

TEL (301)962-7410

FAX (301)962-7411



修了・卒業おめでとう！

●いよいよ今日は、平成30年度の修了日です。1年の終りにあたり、児童生徒に贈る言葉を掲載致します。

『今年度は開校60周年という節目の年でした。そして今日は学年の終わりの日です。

日本語学校は、現地校と違い1週間に1回しか授業がありません。1年間で41回の授業日を休まずに登校出来た人、風邪などの病気やけが、ほかの用事で学校を休んでしまった人、それぞれ事情は違いますが、皆さんが、今日の日を迎えられたことを大変うれしく思います。

直接、皆さんの前でお話をしたかったのですが、これから小学部6年生、中学部3年生、高等部2年生、計108名の皆さんの卒業式があるためにできません。代わりに担任の先生に手紙を読んでいただきます。

さて、皆さんはこれから修了証をいただきますが、修了証というのは、「今の学年が、今日で終わりました。」という証明書です。

4月から皆さんは、1学年ずつ上に上がることになります。中には、違う道に進む人もいますが、修了証は、1年進級してもいいですよ、という証明書です。修了おめでとうございます。

この一年間を振り返ってみますと、皆さんのいろいろな頑張りを思い出すことができます。

1. まず、学習についてですが、月曜日から金曜日まで現地校に通い、英語で勉強し、土曜日は、日本語学校で、日本語による勉強、二つの学校での勉強の違い、言葉の違いを乗り越えよく頑張りました。

当然、英語の方が、得意という人もいますでしょう。ここは、アメリカですから仕方ありませんが、英語に負けないくらい、日本語も「聞く」「話す」「読む」「書く」力をさらにつけてください。

2. 現地校の友だちは、土曜日は休んで遊んでいるのに日本語学校に通う自分は「土曜日も勉強か、自分も休みたいな」と思ったことはありませんか。

「日本語は難しい」「漢字を覚えるのが大変」「作文が書けない」など悩むこともあったでしょう。

でも、あなたと同じように思いながらも頑張った今日を迎えた友だちが、日本語学校には、700人もいます。同じ日本人としてのルーツを持ち、また、日本が好きで日本語学校に来ている子もいます。ここには心が通じ合える大勢の仲間がいることを忘れないでください。

3. 皆さんが豊かなアメリカに住み、英語を話し、日本語学校に来て日本語と日本文化を学べるのも、お父さんやお母さんの協力と手助けがあるからです。

学校に登校するのに、ほとんどの人が、お家の人の運転する車に乗って学校に来ます。お弁当も作ってもらっています。帰ってから宿題を教えもらう人もいますでしょう。

そのお陰で今日が迎えられました。お父さんお母さんに感謝の気持ちを忘れないでください。

最後に、「会うは別れのはじめ」と言われますが、私たちは、人生の中で多くの人と出会い、そして別れを繰り返します。今日で、私と教頭先生は、ワシントン日本語学校の皆さんとお別れです。皆さんとの出会いと同時に学校との出会いと別れでもあります。楽しかったこと、驚いたことなど、たくさんの思い出を持って日本に帰ります。

また、いつかどこかで、大きく成長した皆さんに会いたいと思います。日本とアメリカは遠く離れていますが、心はいつでも皆さんの近くにいます。「大変お世話になりました。」と、お家の方にお伝え下さい。1年間、よくがんばりました。修了おめでとう！』

平成31年3月16日

ワシントン日本語学校校長 佐藤良明



お世話になりました

校長 佐藤良明



「出会いとは偶然、別れは必然」
いつかは、その時が来るものと覚
悟はしておりましたが、あつとい
う間の3年間でした。

ワシントン日本語学校勤務を命
ぜられ、ダレス空港に希望と不安を抱えて降り立っ
たのも、ついこの前のように感じます。この間、子
ども達から沢山の感動と夢と元気をもらいました。
また、温かい人間関係に包まれて、学校や事務局で
働くことの喜びを味わいました。アメリカの地に居
ながらも思いやりと心遣いを忘れない、日本の心を
大切にしたい人々が日本語学校に集い、子ども達の教
育をサポートしてくださいました運営委員会の皆
様、保護者の皆様ありがとうございました。

教職員と共に問題解決に取り組んだことを思い起
こすと、今では楽しい思い出として心に刻まれてい
ます。先生方一人ひとりの能力の高さに驚き助けら
れました。

自分の力で出来たことは何もなく、力が及ばなか
ったことばかりで、多くの方々にご迷惑・ご心配を
おかけしながらも温かいご支援・ご協力に支えられ
て、校長職に胸を張り、誇りをもって務めることが
できました。また、開校60周年という節目の年に
勤務できたことも光栄に思います。心から御礼を申
し上げます。

終わりに、ワシントン日本語学校の益々のご発展
と皆様方のご健康とご多幸を心よりお祈りしまし
て、お別れのご挨拶といたします。

教頭 小野智充



「月日は百代の過客にして、
行きかふ年もまた旅人なり。」
松尾芭蕉は過ぎ去っていく月日
を旅人にたとえ、旅へのあこがれ
を表しました。

この3年間は自分の「海外で学ぶ子どもたちの力
になりたい」という希望からスタートした長くてあ
つという間の旅でした。芭蕉は江戸時代初期の旅の
大変さを十分わかっていながら、その中で俳句を中
心とした文学を究めようとしていました。自分も苦労は
覚悟の上で、本校のために貢献できればとできる限
りのことをしたつもりですが、解決できなかった課
題もあり、またご迷惑をおかけしてしまったことも
ありと反省することばかりです。

しかし、本校の発展のためにご自分の事も顧みず
尽力される運営委員の方々、日本を愛しその思いを
受け継いでほしいと切に願いお子さんをサポートさ
れる保護者の皆様、様々な困難な要因にも負けず情
熱をもって指導される先生方、あらゆる立場を考慮
して学校運営の支えや授業の準備を進められる事務
局員の方々、そして、いろんな大変さを抱えながら
も懸命に学び日本語や勉強を身に付けようとしてい
る子どもたちに、逆に力をもらい勉強させられ元氣
づけられる毎日でした。日本にいてはできない素晴
らしい教育体験をすることができました。本校に関
係する皆様にお礼を申し上げます。本当にありがと
うございました。

旅の終わりとなる日本の片隅から、ワシントン日
本語学校のさらなる発展と子どもたちの輝かしい未
来が実現することをお祈りいたします。

平成 31 年度学級・児童生徒数

	幼稚園部	小学部	中学部	高等部	計
1年	③ 44	⑤ 78	③ 49	① 20	○数字 は 学級数
2年		⑤ 103	③ 48	① 32	
3年		④ 86	② 32		
4年		④ 70			
5年		④ 87	3月2日現在見込み数		
6年		④ 60			
計	③ 44	②6484	⑧129	② 52	709

2019年度

4月の行事予定

日	曜	行事予定
7	日	前期始業式（通常授業特別 時程）運営委員会 職員会議
13	土	休業日 さくら祭り
14	日	授業日 入学式
20	土	特別総会 不在者対応訓練
27	土	避難訓練 職員会議

創立60周年記念事業 ご協力ありがとうございました

ワシントン日本語学校「創立60周年記念事業」が、60周年記念行事執行小委員会（60周年小委員会）の皆様の企画、運営により、9日のタイムカプセル封印式、記念誌ハードカバー配付をもって成功裡に終了いたしました。記念企画にご協力をいただいた多くの教職員、保護者、関係者の皆様にも感謝申し上げます。

子ども達にとって、この記念の1年は、記憶に残る平成30年度（2018年度）となりました。この節目の年を、人生の大切な思い出の1ページにしてもらえれば幸いです。

記念誌には、ワシントン日本語学校を支えて下さっている多くの方々からの日本語学校に寄せる大きな期待と温かなメッセージがありました。20年後、タイムカプセルを開け、2018年の子ども達からの手紙を読んだ未来の日本語学校の子ども達は、どのように感じ創立80周年を迎えるのか、想像するだけでもわくわくします。ありがとうございました。

思い出の60周年記念行事

【60周年記念行事執行小委員会】

委員長	菊地 円様	
委員	オーバー百代様	ガイス充子様
	古賀 久芳様	佐藤みゆき様
	高田 潤子様	馬場 大輔様
	松本 哲人様	
相談役	小野口典子様	
記念誌デザイン	我妻 佳夏様	
	安田 歩美様	
記念行事 IT 支援	森本 樹様	



60周年小委員会の皆さんと共に



5月-卒業生・元在校生に会おう！



2月-元在校生秋葉文志
国際教養大学准教授講演会



12月-卒業生・元在校生に会おう！



11月-教育講演会：在アメリカ合衆国
日本国大使館
一等書記官 大江耕太郎氏
一等書記官 馬場 大輔氏



5月-特別授業「創作ダンス」
バイデン恭子先生



5月-特別授業「落語教室」
桂 三輝(サンシャイン)師匠



12月-元在校生水野雄太
弁護士講演会



3月-記念誌ハードカバー配付



9月-60周年記念大運動会
全校集合写真



3月-タイムカプセル封印式



卒業式 送辞



卒業生の皆さま、ご卒業おめでとうございます。高1生徒会副会長のカルボスキー慶です。

毎年3学期に入ってから学年が終わるまで本当にあっという間ですが、ご卒業される皆さんにとっては、本日の卒業式に向けて過ごしてきたこの数ヶ月間は、時間の流れが特に速く感じられたことと思います。振り返ると、たくさんの思い出で詰まった1年間でした。その一つ一つの思い出は、今日卒業する皆さんのおかげで私たちにとってもより素晴らしいものになりました。

やはり日本語学校で一番大きなイベントといえば運動会ではないでしょうか。6年生の皆さんが一生懸命、助け合って競技に取り組む姿を見て、自分の競技を頑張ろうと意気込んだ人はたくさんいたことと思います。中学校3年生の皆さんは、応援団だけでなく、審判、用具、そして放送係を担当し、抜群のチームワークで両チームの団結力を高め、運動会を支える大きな力となりました。そして、高校2年生の先輩方は、応援団として運動会を盛り上げただけでなく、最高学年としてのリーダーシップを発揮し、それぞれのチームをまとめ上げてくださいました。そんな皆さんの頑張りがあったからこそ、今年の運動会は日本語学校創立60周年に相応しい大成功で終えることができたのだと思います。

運動会以外でも、皆さんの活躍は一年を通して色々な場面で見ることができました。6年生は、生徒会の中では最年少学年ですが、学年挙げて積極的に会議や活動に参加し、美化月間では率先して教室を綺麗に使用していました。また、ワシントン桜祭りでは中学校3年生が日米親善大使として日本の各地域について発表し、ボランティアとして参加した高校生も今までの日本語学校での経験を生かして、日本の文化を祭りに

来られた人たちに伝えました。この他にもたくさんありますが、全ては私たちの日本語学校でのかけがえのない思い出となっています。

今日、この会場には、在校児童・生徒、保護者の皆さま、そして、先生方からのメッセージで作り上げられた立派なさくらの木が飾られています。このさくらの木に咲く花びら一枚一枚は、卒業される皆さんへの私たち一人一人からのお祝いと感謝の気持ちです。今まで本当にありがとうございました。

四月から進級する6年生、そして中学校3年生の皆さんは、努力はいつか必ず実ること、そして挑戦し続ける気持ちを忘れずにこれからも頑張ってください。来年もよろしく願います。そして、今日をもって日本語学校とお別れをする高校2年生の先輩方は、アメリカと日本の両方の文化に触れて学んだこと、そして、今まで共に過ごしてきた仲間との思い出を糧として夢に向かって走って行かれることと思います。

最後に、これから人生の階段を一つ登る卒業生の皆さんの将来が、桜のように美しく花開くよう心からお祈り申し上げて、私からの送辞とさせていただきます。

平成31年3月16日

在校生総代 カルボスキー 慶

小林一茶第18回全国小中学生俳句大会 (長野県)

特選 おふろ場でクモがこっそり巣を作る

小6 ノーサルマリー花子 さん

入選 秋風が拾った落ち葉を吹き飛ばす

中1 滝沢 昂己 さん

「俳句・短歌クラブ」で作って応募した作品です。

平成30年度「はなみずき」が、今日で終了です。3年間、学校の様子、子ども達の活動を少しでも伝えようと書いてきました。

私にとっても数々の思い出が、よみがえってきます。これまでのご愛読に感謝いたします。ありがとうございました。

校長 佐藤良明

